

題字は達増知事

平成19年6月号

発行所

社団 岩手県畜産協会

〒020-0173 滝沢村滝沢字砂込389番7

☎ 019-694-1300(代)

FAX 019-694-1305

Internet Address <http://iwate.lin.go.jp>

E-Mail Address info@iwate.lin.go.jp

(定価110円)会員の購読料は会費に含まれる

印 刷 小松総合印刷株式会社



乳肉複合による和牛増殖への期待

(社)岩手県農畜産物価格安定基金協会

副会長理事 馬場明雄

和牛子牛の高値が続いている。当協会の黒毛和種母牛飼養台帳によると、こうした状況を反映して県内の繁殖雌牛頭数は増加しており、子牛の市場上場頭数も同様に増えている。

一方、国産牛肉の枝肉価格は、米国産の輸入が再開されたものの、量的に少ないとあって堅調な相場が続いている。

このように肉用牛農家は良いように見えるが、肥育農家は全国的な素牛不足によって高い素牛を購入せざるを得ず、収益性で厳しさが増していると思われ、さらに海外におけるトウモロコシのエタノール用需要の拡大等による配合飼料価格の高騰も、経営圧迫の不安要因になっている。

このような中で、農水省は和牛繁殖雌牛の増頭対策を中心とする新たな事業を創設したところであり、生産者、関係機関・団体が一体となって「いわて肉用牛増頭運動」を開催している本県としては、積極的に活用すべき内容と受け止めているが、中でも関心を持っているのが酪農経営活用肉用牛増頭対策である。

この対策は乳牛の借り腹による和牛生産を促すもので、このこと自体はこれまで進められて来たことではあるが、今回この対策に関心を持ったのは、昨年、県外も含めた出張先で、大規模酪農経営が搾乳を基本としつつ受精卵移植による和牛生産に取り組んでいる、いわゆる乳肉複合経営を訪れる機会があり、経営者の考え方が印象深かったからである。

経営規模は、成牛300頭と400頭（別に和牛繁殖雌牛30頭）、それぞれ屈指の大規模経営であるが、最近の生乳事情や、規模拡大を進めるにして

も環境対策の制約があるため、新たな所得確保の方策として、経産牛をフルに活用でき、受精卵移植技術を導入し易く、さらには産子の哺育時の経済性が有利であることなどから、酪農の持つ特色を生かせる和牛生産に取り組んでいるものである。

乳肉複合経営における和牛の受精卵移植技術導入のポイントは、技術水準の向上は勿論のこと、

受精卵を安定して確保できる体制を如何に整備できるかである。一方は同地域内の和牛農家から供給を受け、他方は自家採卵であり、ともに血統も考慮に入れつつ必要な量を確保できる状況であった。

また、子牛価格が好調なこととあって産子は全て販売しており、目安としている水準を下回るようになれば肥育を考えるとのこと、いずれ後継者は酪農、自らは肉用牛を担当することとし、実用段階にある雌雄産み分け技術の活用も視野に入れているようである。

和牛の飼養管理技術等について尋ねると、コンサルタントの指導助言に従えば良いとの回答で、一人では自ずと限界があるとの理由からであり、大規模経営なればこそ考え方と印象に残っている。

受精卵移植については、岩手県農業研究センター畜産研究所でも良質な受精卵の安定生産のための研究が進められており、技術水準の向上とともに、所得拡大方策として和牛の受精卵移植に取り組もうとする酪農経営（肥育を行うかどうかは別として）は増えるものと思われる。一方、課題になっている和牛生産基盤の強化の面からみれば、短期間での優良和牛の増殖が可能になり、また、肥育素牛（雄）の確保も見込まれ、研究成果と併せこの度の対策の成果に期待したい。

畜産春秋

シリーズ11 今こそ肉用牛の増頭を!

—キャトルセンター構想実現に向けた「かしらぎ和牛の会」の取り組みについて—

中央農業改良普及センター 軽米普及サブセンター 藤原哲雄

いわて肉用牛増頭運動に向けて本誌では各種情報や地域での取り組みをシリーズで紹介しています。今回は二戸地方における取り組みを紹介します。

1. 二戸市の和牛経営の現状

二戸市は典型的な中山間地であり、和牛繁殖経営は葉たばこや水稻との複合経営が主体となっています。水稻や葉たばこからの所得が年々低下する中で、二戸市では、それら作目の規模拡大での所得確保は難しい状況にあります。中には農業外で所得確保する農家も多くなり、さらに飼養者の高齢化進行等の影響から、二戸市の和牛繁殖経営戸数は、平成10年の66戸412頭をピークに減少傾向に転じ、平成17年には50戸322頭（いずれも旧二戸市）となっています。このような中で、所得率が高い黒毛和牛繁殖牛を増頭し、安定的に所得を確保していきたいという意向を持つ農家が多くなってきました。しかしながら農家個々では「現状の牛舎施設が満杯で、個人的にはこれ以上の増頭（施設投資）は難しい」「繁殖経営は継続したいが年齢のこともあるし、労働力が足りない」などの問題を抱えている状況が目立っています。

2. 地域で一体となった増頭への動きの契機

このように増頭は難しいという状況ではありましたが、ここにきて景気の低迷の影響もあり、他

産業に従事しながら和牛に係わってきた若い世代が、本格的に和牛経営に取り組もうという動きが出てきました。また、本格的に増頭へ取り組んできた農家においても後継者が就農するにあたり、経営規模拡大の必要性に迫られている経営も出てきました。このような流れの中で、増頭意欲を持った農家同士が今後の経営拡大について話し合う機会が多くなり、その中で今後の和牛経営について検討していく上で、キャトルセンターの設立が有効であるという事をみんなで確認し「共有の夢」として位置付けることで意見がまとまりました。

3. 夢の実現組織「かしらぎ和牛の会」の設立

夢の実現のための活動母体として意欲を持った農家が集まり、検討組織を設立することになりました。組織の名称は「かしらぎ和牛の会」としました。二戸地域では柏の木のことを「かしらぎ」と言います。柏の木は冬でも枯れ落ちる事はなくどんな風雪にも耐え、春に若葉が育つてから枯れ落ちます。そのような性質にあやかり、後継者が十分に活躍できる場所を整備しておきたいという気持ちを込め命名したも



もくじ CONTENTS

畜産春秋	1
シリーズ・今こそ肉用牛の増頭を	2
平成19年度県畜産関係重点推進事項(その1)	4
2007 LIAJ 酪農講演会	6
繁殖技術に関する馬産技術者養成講習会の開催	6
松原さん夫婦優秀賞受賞祝賀会	7
「特定JAS規格地鶏肉の生産振興」研究会開催される	7
国産食肉料理コンクール	8

肉用牛の地域支援指導地域セミナー	9
畜産技術情報	10
家畜の保健衛生	10
現地情報	11
ティータイム	11
畜産の研究	12
第51回岩手県畜産共進会の開催計画	12
子牛市場及び家畜市場成績	12

オガクズおよび杉皮粉碎

気仙郡住田町上有住字山脈地21 (有)菊池製材所 TEL. 0192-48-2528 FAX. 0192-48-3261

入用の方は、下記あてご連絡をお願いします。
価格、運搬方法についてはご相談に応じます。
なお、杉皮粉碎は格安でお譲りします

のです。管内の和牛飼養農家に会設立の趣旨と参加を呼びかけたところ、全50戸のうち44戸の参加により平成18年2月に「かしらぎ和牛の会」が設立されました。会の設立により、キャトルセンター建設構想を二戸市の和牛農家の「共有の夢」として認識させることができ、その実現に向けてスタートしました。

4. キャトルセンター建設に対する取り組み

1) 先進地視察研修

平成18年度にかしらぎ和牛の会として3回の視察研修を行い、以下の事例について研修しました。また、会員のうち2名が北海道で先進事例調査を実施しました。

- ①運動スタンション活用した省力繁殖経営(東和町)
- ②哺乳ロボットを用いた子牛管理(畜産研究所)
- ③公社営事業を利用したキャトルセンター運営(JA江刺)
- ④6山6里方式による周年預託(胆沢町営牧野)
- ⑤大規模肥育経営及び一貫経営(岩手町、紫波町)
- ⑥北海道先進事例(寒冷地での大規模飼養技術)

および哺乳ロボット活用事例調査:音更町、白老町、安平町)

2) キャトルセンター運営検討会の開催

夢をキャトルセンター設立まで持って行くための検討会を、関係機関とかしらぎ和牛の会で開催しました。平成18年は9回開催され、建設のための補助事業については振興局、事業収支計画や牛舎設計・法人化については農業改良普及センター、検討会の運営管理については二戸市役所・JA北いわて、と関係機関の協力分担を明確にし検討を重ねました。検討の結果、利用する事業は公社営事業とし、設立するキャトルセンターの規模は会員の増頭計画調査などから繁殖牛100頭、育成牛100頭、哺育牛25頭の規模としました。センター整備で増頭となる部分の放牧管理に対応する未利用牧野の整備(20ha)を含め、事業費は1億5千万円程度となりました。稼働開始は平成20年4月を予定しています。

3) 農事組合法人「かしらぎ和牛の会」の設立

検討した事業計画を基に平成19年3月13日に農事組合法人「かしらぎ和牛の会」の設立総会が開催されました。これまでの任意組合組織

が法人格を持つこととなり、本格的にキャトルセンター設立に向けてスタートを切ることとなりました。



5. かしらぎ和牛の会が運営するキャトルセンターの特徴

既存のキャトルセンターで行われている育成及び成牛の預託に加えて、実施事例の少ない分娩から哺育についても受け入れする計画です。これは季節的に作業が集中する葉タバコや野菜など複合経営農家の労力軽減のために、有効に利用して欲しいという目的があります。農家が自ら運営するキャトルセンターらしく、農家の目線に立ったキャトルセンター運営を目指しています。

6. 今後の取り組みについて

1) キャトルセンター活用に向けての会員の基本技術のレベルアップ

キャトルセンターを有効に利用していくためには、センターでの群飼管理においても十分な発育ができるような育成技術を会員が習得することが重要になります。具体的には哺育牛については代用乳への慣れいや衛生管理プログラムの徹底、育成牛については3ヶ月齢時離乳等の技術標準化に取り組む予定です。

2) キャトルセンターの健全運営

キャトルセンターの稼働率を早期に高いレベルで安定させるためには、利用農家が十分にメリットを感じることが重要です。センターの活用により空いた牛舎スペースで繁殖牛を増頭することはもちろん、余った労働力を複合部門を拡大するなどして経営を発展させることが必要になります。キャトルセンターの稼働に合わせ各経営で十分に理解を深め、しっかりととした利用計画作成に取り組んでいきます。



母豚2,000頭の一貫経営

・良質豚ぶん堆肥の供給
・徹底した衛生管理と優良系統豚による齊一性の高い高品質豚肉の生産・供給

「南山形養豚組合」

岩手町大字川口36-242-3

TEL. 0195-62-9087 FAX. 0195-62-9373

※精肉のご用命は岩手畜流会(食肉専門店)へ

平成19年度県畜産関係重点推進事項(その1)

岩手県農林水産部畜産課

平成19年度業務推進方針

○ 目指す姿

- 1 経営者が一定の所得を確保し、いきいきとした生活や生産活動を行っています
- 2 消費者の支持が得られる全国有数の畜産主産地としての地位が確固たるものになっています
- 3 環境に配慮した岩手らしい畜産団地が形成されています

【組織のプロフィール】

(1) 組織の役割(目的・存在意義など)

畜産課は、生産者が一定の所得を確保し、いきいきとした生活や生産活動を行うとともに、消費者に対して安全で安心な畜産物を安定的に供給するため、生産者を始め畜産物の生産に関わる関係者等の支援を通じ、本県畜産業の安定的な発展を目指します。

(2) 組織の主要な価値提供先(顧客)やビジネスパートナー

当課の価値提供先は、畜産業を営む生産者、畜産物の生産・流通に携わる関係者、ひいては消費者であり、ビジネスパートナーは、地方振興局、家畜保健衛生所等の県関係機関、市町村、農業協同組合等の関係機関・団体です。

(3) 主要な価値提供先(顧客)ごとの提供すべき価値

畜産業を営む生産者に対する直接的な支援策を講ずるほか、畜産物の生産・流通に携わる関係者を通じて間接的に生産者を支援することにより、生産者の経営の安定と消費者に対する安全・安心な畜産物の安定的な供給に寄与します。

(4) 組織や業務を取り巻く環境とその変化

① 本県の畜産は農業産出額の過半を占め、また、全国でも屈指の地位にありますが、酪農、肉用牛の大家畜部門の経営規模は零細で、全国でも下位に位置しており、規模拡大の核となる担い手の育成が課題となっています。

② また、国際化の進展に伴う、輸入畜産物の動向を的確に把握するとともに、高病原性鳥インフルエンザ等の家畜伝染病について、引き続き、侵入防止と防疫対策に万全を期する必要があります。

③ さらに、耕畜連携による家畜排せつ物の有効活用や環境にやさしい資源循環型社会の実現に向けたバイオマスの利活用促進、リサイクル利用、水田を利用した飼料作物の生産・放牧等による飼料自給率の向上への取組みの強化が求められております。

④ 組織については、厳しい財政事情のなかで、職員・組織体制の更なるスリム化と価値創造的な業務への注力及びサービス向上のための取組みが一層重要とされていることから、コスト感覚やスピード感を常に意識するとともに機動的・弾力的な組織運営が必要となっております。

【組織運営にあたっての基本的な考え方】

(1) ミッション(課の取組み方針)

上記に掲げる組織のプロフィールに対して共通の認識を有したうえで、以下に掲げる平成19年度重点推進事項について、課員個々が明確な目標数値と目標期間を定めて業務を執行します。

(2) 組織運営の指針

- ① 行財政構造改革プログラムに基づき、事務事業等の見直しを行いながら、新しい視点を取り入れるとともに、県民の行政に対する信頼の向上に努め、常にコンプライアンス(法令等遵守)を意識して業務を推進します。
- ② 業務方針推進支援プログラムなどを通じて、職員間の対話を円滑にし、常にモチベーションの高い働きやすい職場環境を作ります。
- ③ I M Sの実績を踏まえ、価値創造的な業務への注力と顧客サービスの向上を図ります。

【ありたい職員像】

(1) 県民の視点に立ち、顧客やビジネスパートナーの期待と信頼に応える職員

顧客のニーズを的確に把握し、パートナーとの連携を十分に図ります。

(2) 高い能力を持ち、質の高いサービスを提供できる職員

専門的な知識とコスト意識を持ち、プラス思考で的確かつ迅速に仕事を行います。

(3) 地域社会等へ貢献できる職員

町内会や子ども会等の地域活動やボランティア活動等の社会貢献活動へ積極的に参加するよう取組みます。

【重点推進事項】

対策事業等 : ◎県単新規 ○県単継続 ●国庫新規 △国庫継続 ◇機構事業 □地全協他 S政策調整枠事業

目指す姿（施策項目）	平成19年度取組み事項		主な対策事業等
	業務課題等	具体的推進内容	
1 経営者が一定の所得を確保し、いきいきとした生活や生産活動を行っています。	■ 生産性の高い酪農経営体の育成と高品質牛乳の生産	<ul style="list-style-type: none"> ○経営合理化を促進する畜舎等施設整備の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・9地区（継続：葛巻東部第1、葛巻東部第2、盛岡西部、一関、千厩、新規：岩手中央、金ヶ崎西部、岩手宮古、二戸広域第1） ・実施内容（草地造成整備166ha、畜舎12棟、たい肥舎10棟） ○技術向上と経営高度化のための指導支援 <ul style="list-style-type: none"> ・畜産コンサルタントによる個別指導（198件、4～3月） ・畜産コンサルタント団等による地域支援指導（研修会の開催 10回、1～2月） ・畜産関係情報のデータベース化及びホームページによる情報提供（4～3月） ・牛群検定成績を活用した個別指導（県畜産協会：4～3月） ○大規模酪農経営体の育成に向けた総合的支援体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・新たな支援チームの設置（宮古、二戸振興局）（5月） ・フリーストール・フリーバーン酪農研究会（H19.2設立）の活動支援（4、8、12月） ○減産型計画生産への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・牛群検定成績や各種モニタリングによる総合的な個別支援（副産物収入、経営転換等）（県畜産協会・普及センター：4～3月） 	△畜産基盤再編総合整備事業 ○県畜産振興総合対策推進指導事業 ○いわて酪農の郷総合対策事業
【成果目標】 ①1戸当たり平均飼養頭数（頭） 酪農（乳用牛） 33.2(H18)→34.3(H19)→43.7(H27) 肉用牛（繁殖+肥育） 11.7(H18)→12.3(H19)→15.4(H27)			
②認定農業者率（畜産）（%） 16.7(H18.3)→17.8(H20.3)→18.1(H21.3)			
③一定規模階層以上の農家数割合（%） 酪農（成牛30頭以上飼養戸数） 27.7(H18)→29.2(H19)→38.1(H27) 肉用牛（20頭以上飼養戸数） 11.2(H18)→11.8(H19)→13.5(H27)			
④肉用子牛生産者補給金制度への加入率（%） 100(H18)→100(H19)→100(H21)			
【成果目標】 ⑤肉豚価格差補てん事業への加入率 67%(H18)→73%(H19)→73%(H21)			
⑥ブロイラー価格安定対策事業への加入率 100%(H18)→100%(H19)→100%(H21)			
	■ 肉用牛生産の中核となる経営体の育成と低コストで高品質な牛肉生産の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○いわて肉用牛増頭運動の展開 <ul style="list-style-type: none"> ・農業者相談窓口の開設（毎月：振興局、家保、普及センター） ・生産者スキルアップ研修会の開催（毎月） ・生産者交流大会（11月）、優良事例の紹介と表彰（11月） ・「いわて肉牛モーモー女性ネット」（H19.2設立）への支援（2月） ・地域の増頭に向けた取組みへの支援（12地区） ○担い手の育成・確保のための支援 <ul style="list-style-type: none"> ・低コスト牛舎の整備 20棟 ・肉用牛繁殖基盤の拡大と地域内一貫生産体制の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・優良繁殖雌牛の導入 農協有等導入 95頭 ・特別導入 143頭 ・優良繁殖雌牛の整備 370頭 ○キャトルセンターの整備・機能強化による生産基盤強化 <ul style="list-style-type: none"> ・畜産基盤再編総合整備事業（再掲） <ul style="list-style-type: none"> 3地区（継続2：一関地区（須川牧場）、千厩地区（室根高原牧場）新規1：二戸広域第1地区（かしらぎ和牛の会）） ○肉用牛経営の安定 <ul style="list-style-type: none"> ・肉用子牛生産者補給金制度への加入促進 <ul style="list-style-type: none"> 黒毛和種 27,930頭、その他肉専用種 3,112頭 ・肉用牛肥育経営安定対策への契約促進 20,500頭 ○放牧を活用した低コスト生産の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・パドック・電牧の整備 5基 ・放牧衛生資材の活用支援集団 35集団 ○肉用牛飼養管理技術の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・生産者スキルアップ研修会（再掲）を通じた指導（毎月） ・地域で行う飼養管理巡回指導等に対する支援 <ul style="list-style-type: none"> ・分娩間隔の短縮 現状14.0ヶ月 → 目標12.5ヶ月 ・子牛市場上場月齢の適正化 10ヶ月齢 → 9ヶ月齢 ○経営高度化のための指導支援（再掲） 	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <div>◇畜産関係団体運営基盤強化基金</div> <div>○新しいわて農業担い手支援総合対策事業</div> <div>○家畜導入資金供給事業</div> <div>◇肉用牛繁殖基盤強化総合対策事業</div> <div>△畜産基盤再編総合整備事業</div> <div>◇肉用子牛生産者補給金制度</div> <div>○肉用子牛価格安定対策事業</div> <div>◇肉用牛繁殖基盤強化総合対策事業</div> <div>◇畜産関係団体運営基盤強化基金</div> <div>○県畜産振興総合対策推進指導事業</div> </div> <div style="width: 45%;"> <div>○優良系統豚造成利用促進対策事業</div> <div>○肉豚価格差補てん事業</div> <div>◇鶏肉生産性衛生管理向上等対策事業</div> <div>○ブロイラー価格安定対策事業</div> <div>○県畜産振興総合対策推進指導事業</div> </div> </div>
	■ 低コストで高品質な豚肉生産による収益性の高い経営の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○養豚生産基盤の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・繁殖雌豚の導入支援……純粋種豚 25頭、F1種豚 100頭 ○養豚経営の安定 <ul style="list-style-type: none"> ・肉豚価格差補てん事業への加入促進…H19契約予定頭数 490千頭 	
	■ 国際化に対応できる収益性の高い肉用鶏経営体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ブロイラーの生産性向上 <ul style="list-style-type: none"> ・飼養環境改善（3組合、55農場） ○ブロイラー経営の安定 <ul style="list-style-type: none"> ・価格安定対策……H19契約羽数 93,500千羽 ○地域特産肉用鶏の振興支援 <ul style="list-style-type: none"> ・岩手ブランド地鶏肉生産支援……種鶏供給（種卵） 500個 ・南部かしわ供給……素雛供給 11,720羽 ○経営の高度化のための指導支援（再掲） 	

2007LIAJ(家畜改良事業団) 酪農講演会

2007年家畜改良事業団種雄牛センター主催の標記講習会が盛岡市つなぎのホテルで開催されました。

講習会には本県のほか東北各県のホルスタインクラブ会員の酪農家をはじめJA、関係機関の担当者等150名が参加し、家畜改良技術研究所の遺伝検査部長森田光夫氏の「最近のDNA検査を用いた遺伝病ならびに手法について。」、北海道の酪農家加藤孝志による「ET技術を用いた酪農経営」を熱心に受講していました。

【情報提供】

盛岡種雄牛センターから「乳用種雄牛評価成績(2007年2月)」と特に推奨する種雄牛について、能力や特徴の紹介がありました。

【講演】

○「最近のDNA検査を用いた遺伝病ならびに手法について。」

家畜改良技術研究所

遺伝検査部長 森田光夫氏

- ・DNAを使った遺伝子検査を実施
- 牛の親子鑑定や豚の親子鑑定が主な業務
- 牛の遺伝子検査37,000件のうち6~7割はET
- 牛の親子鑑定
- ・DNA検査も血液検査から毛根を使った検査



に変わった

- ・但しフリーマーチンだけは血液で実施

○「ET技術を用いた酪農経営」

旭川市 グリーンはいつ牧場

加藤孝志氏

- ・昭和21年から酪農を開始、現在60頭規模(経産牛35頭、未経産牛25頭)
- 乳量1頭当たり10,735キロと高い水準
- ・本当に良い牛とは高能力・好体型、長命・連産・管理のしやすい牛
- ・ETによる牛群つくり。
- どのような牛群にしたいか、明確な目標を持つた受精卵の導入。また繁殖の能力に優れたもの。
- ・良質な粗飼料多給による健康な牛作り
- ・少頭数で牛群のレベルアップと無駄を省いた経営

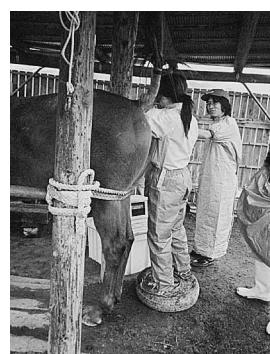
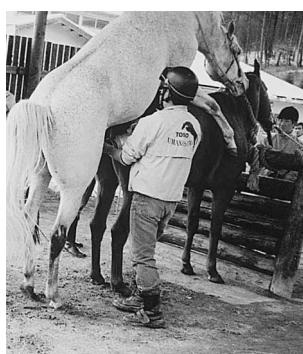
繁殖技術に関する 馬産技術者養成講習会の開催

馬事振興のため、馬産農家の飼養管理技術の向上と馬産技術者の養成を目的に、(社)岩手県馬事振興会(事務局本会)主催の繁殖技術に関する講習会が、馬産農家や、獣医師、関係機関の担当者等が参加し、遠野市松崎町「馬の里」で開催されました。

講習会では初めにパワーポイントにより発情発見から排卵黄体の確認、人工授精の進め方などの講義の後実技研修を行いました。

実技では実際に種雄馬から精液を採取したり、

また人工授精の適期を確認するため超音波装置による卵巣、排卵の状況を確認するなど先進的な人工授精の方法に参加者は自ら体験したり質問するなど、熱心に受講していました。



多様化する業界ニーズに応えトータルな畜産の未来を提案し続けます。



丸善農品株式会社

【支店・営業所】 [北海道] 札幌・旭川・北見・帯広・釧路・函館 [東北] 青森・八戸・秋田・盛岡・一関・山形・仙台・郡山

本社 〒061-1274 北海道北広島市大曲工業団地6丁目2番地13

TEL 011(376)3860 FAX 011(376)2600

盛岡支店: TEL 019(638)3291 一関営業所: TEL 0191(23)2756

松原さん夫妻優秀賞受賞祝賀会

このほど、零石町農業関係表彰等受賞祝賀会が開催され全国優良畜産経営管理技術発表会（中央畜産会主催）で岩手県代表として優秀賞（農林水産省畜産局長賞）を受賞した松原久美・たみえ夫妻等、4事業、7個人・団体および農業農村指導士認定の受賞祝賀会が零石町中央公民館で開催されました。

松原さんは酪農の規模拡大を着実に推進とともに、これからは生乳販売だけでなく生産から加工、販売まで付加価値を高めるような経営が必要だとの思いからアイスクリームの加工販売を実施、産直施設も開設するなど農業の6次産業化を図ってきました。

「自分の生産した生乳を直接消費者に届けたい」という思いと高付加価

値化による所得向上を目指して、平成13年にアイスクリーム工房「松ぼっくり」をオープン。

妻たみえさんの地場野菜やユニークな食材を活用した新メニューの開発で予想を上回る来場者で賑わいシーズン中は長い行列が出来るほどで、年間15万人が訪れます。

11月2日東京で行われた発表会、授賞式には久美さん、たみえさんが揃って出席し、審査講評では「酪農経営、加工、産直と今後幅広く展開ができる発展が大いに期待できる経営体」と高く評価されました。



受賞者を代表して謝辞を述べる
松原久美さん

「特定JAS規格地鶏肉の生産振興」研究会開催される。

地鶏肉の生産振興をテーマとした岩手県畜産技術連盟（代表世話人山下良弘、会員124名）主催の今年度3回目の研究会が、本県の他、福島、山形県からの参加者を含めて約60名出席して盛大に開催されました。

研究会では講演を①(独)農林水産消費技術センター有機食品指導第2係長 石田智美氏。②岩手県農業研究センター畜産研究所主任専門研究員吉田登氏及び福島県農林水産部畜産振興グループ宍戸秀吉氏、福島県畜産研究所養鶏分場専門研究員小林雄治氏の4名にお願いし、その後総合討論を行いました。

①技術センターの石田係長は、特定JAS規格地鶏肉の制度の仕組みや地鶏肉の登録審査・認定の手順や生産方法の基準等について解

説があり、徳島県の「阿波尾鶏」など、全国の約20銘柄鶏のJAS規格認定地鶏が紹介されました。

②岩手県の吉田主任専門研究員は岩手県の天然記念物「岩手地鶏」を活用した「新南部かしわ」を、福島県の小林専門研究員は「純系会津地鶏」による「会津地鶏」について、その作出方法や飼養方法と今後の生産・販売戦略について紹介しました。

討論では参加者から小規模生産者への生産支援要望が出され、また流通関係者からは消費者に受け入れられる価格提示と低コスト生産方法が必要等々の意見が出され、活発な議論のうちに終了しました。

また、当日は南部かしわ（K系）を調理した「すき焼き丼」を出席者に試食を行いましたが、参加者からは大変おいしいと講評でした。



東北六県・北海道をネットワーク 農畜産の振興に奉仕する動物用医薬品、ワクチン類、機具器材、プレミックス

小田島商事株式会社

本社 0198(26)4151(代)
花巻(営) 0198(26)4700(代) 大船渡(営) 0192(26)4740(代)
盛岡(営) 019(638)9551(代) 八戸(営) 0178(34)2284(代)

プレミックス工場 0198(26)4726(代) 家畜衛生食品検査センター 0198(26)5375(代) 大館(営)、横手(営)、青森(営)、古川(営)、山形(営)、酒田(出)、福島(営)、新潟(駐)、旭川(営)、札幌(営)、帯広(営)、釧路(出)

地域食材と国産食肉の創作料理発表会

国産食肉料理コンクール

県食肉消費対策協議会と県食肉事業協同組合連合会主催の国産食肉料理コンクールが「盛岡市上田公民館」で開催され応募のあった17点から書類選考された8作品が参加しました。

同コンクールは食肉料理の開発と普及促進を図り、国産食肉の消費拡大につなげようとするもので、10代から60代までの学生やOL一般の主婦、農家の主婦などが参加しました。牛肉、豚肉を主体にりんごやナス、トマト、日本そばなど地域食材を取り入れた創作料理に挑戦、腕によりをかけた食肉料理はいずれも独創的でおいしく甲乙付けがたいものでした。

審査の基準は①家庭料理として独創性に富む②食肉の部位の特徴を上手に生かしたもの③盛り付けもよく、おいしいもの④手軽さ・普及性・地域性のあるもので、審査は県立大学盛岡短期大学部名誉教授森成子氏ら5人で審査を行いました。

森審査委員長は講評で「本コンクールは20数年の実績を持ち作品のレベルも向上し、充実かつ洗練されており、調理技術、腕前等は大変良かつた。審査は県産食肉の創作料理として、「おいしさ、

普及性、独創性、部位の特徴活用」などを慎重に審査し受賞者を決定した。最優秀賞に選ばれた小沢裕子さんの作品は、肉づくしの中に食肉の特徴を上手に活かし、味も良かった。いずれの出品者も優秀な作品であり、今後さらに食肉の素材、地域食材を取り入れ、工夫と研鑽を重ねていただきたい。」と審査結果を報告しました。

審査の結果、最優秀賞には花巻市の小沢裕子さんの「三肉志（さんにくし）～五平もち添え～」、優秀賞には紫波町の高橋ノリ子さんの「肉の飾り巻き蒸」が選ばれました。



（最優秀賞：小沢裕子さんの作品）

○ 作品料理の名称：「三肉志（さんにくし）」～五平もち添え～
○ 地域食材：もち米（ひめのもち）
○ 作品料理の特長：いろんな種類のお肉を一度に沢山食べられるような工夫をしました。 岩手県産の美味しいもち米を味わって欲しいです。
○ 材料及び費用（3千円以内・4人分）
牛肉または豚肉の部位：牛しゃぶしゃぶ肉 200g 豚しゃぶしゃぶ肉 200g 鶏ひき肉 100g 2,300円 副材 料：ひめのもち、レモン 他 700円 合計3,000円
○ 副材料の種類と分量
もち米 1カップ トレッシング（ソース） 《ごへいもち》 A 長葱（みじん切り） 1／3本 ① 梅肉 小匙1 合わせ調味料 生姜（すりおろし） 少々 酢 小匙1 味噌 50g 酒 小匙1 しょうゆ 50cc 砂糖 50g 砂糖 小匙1 ごま油 小匙1 しょうゆ 小匙1 しょうゆ 小匙1 ② マヨネーズ 大匙3 酒 小匙1 塩 少々 わさび（チューブ） 小匙1 サラダ油 少々 カタクリ粉 適宜 砂糖 大匙1
レモン



家畜改良事業団では、牛凍結精液の他、全国的な評価が高まっている体外受精卵（IVF卵）、発情周期の同調鈍性発情・卵巣停止に効果を発揮するイージーブリード、凍結精液の保存容器（MVE社製）を取扱っております。ご利用についてのお問い合わせ・パンフレットのご請求は、盛岡種雄牛センターまでお願い致します。

社団法人 家畜改良事業団盛岡種雄牛センター

〒028-4134 岩手県盛岡市玉山区大字下田字柴沢301-5
TEL 019-683-2450 FAX 019-683-1334 <http://liaj.or.jp/morioka/>

(優秀賞：高橋ノリ子さんの作品)

- 作品料理の名称：「肉の飾り巻き蒸し」
- 地域食材：南部小麦、リンゴ、米
- 作品料理の特長：牛肉の他に豚肉・鶏肉でも応用が出来ます。県の特産物を取り入れました。多少であるが、4つの食品群が含まれ、年齢問わずお進めしたい。
- 材料及び費用（3千円以内・4人分）

牛肉または豚肉の部位：和牛モモ切り落とし	320g	1,568円
副材	料：しいたけ、豆腐 他	430円
		合計 1,998円

○ 副材料の種類と分量

A	南部小麦	200g	B	しいたけ	6個	C	赤米ソース
	塩	小匙1/4		バター	4g		ご飯 200g
	豆腐	1/2丁		しょうゆ	大匙1		昆布だし汁 200cc
	生乳	50cc		砂糖	小匙1		マヨネーズ 大匙2
	カレー粉	小匙2					梅肉 大匙3

ミックスベジタブル 120g すりおろしにんにく 少量 添えにリンゴ・野菜など

肉用牛の地域支援指導 地域セミナー

本会主催の肉用牛地域セミナーが県内5地域で開催されました。

このセミナーは、肉用牛の生産拡大と繁殖基盤の育成強化を目的に、黒毛和種の経験が浅い繁殖農家を対象に、少人数の中で経営の改善や飼養技術の高度化、また畜産をめぐる情勢等について理解を深めるため、地域の関係機関及び指導者と協力して増頭に向けた取り組みとして、支援指導会を各地域ごとに2回、5地域で計10回実施しました。

本会からはセミナーの趣旨及び目的を説明したあと、最近の肉用牛の飼養頭数や家畜市場の子牛価格の状況、子牛の生産費調査の結果、農家がインターネットを活用して情報を入手するシングルサインオン機能、また現在、岩手県や市町村並びに本会などが中心になって実施している肉用牛増頭運動の取り組みなどについて情報提供を行いました。また農業改良普及センターからは、家畜の飼養管理上の留意点や各農家の飼養している肉牛の育種価等について説明を行いました。

続いてメインとなる地域セミナーについては、第1回目は黒毛和種の繁殖経営を理解するため（社）家畜改良事業団盛岡種雄牛センター高橋場長から「今後の和牛繁殖を考える」、第2回目は子牛の



洋野町(大野)会場でのセミナー

哺育育成と飼養管理の徹底を図るため、岩手県農業研究センター畜産研究所外山畜産研究室藤澤専門研究員より「和牛子牛の哺育・育成について」と題して講演を行いました。

高橋場長は種雄牛ごとの市場価格や枝肉成績、種雄牛の詳しい能力などの他に、現在の子牛価格の高騰がいつまで続くのかといった不安や濃厚飼料価格の値上がりで、粗飼料確保の重要性等。また、藤澤主任専門研究員は子牛の哺育と育成、離乳、消毒の必要性と衛生管理の重要性等を説明し、その後活発な意見交換が行われました。

○開催日時

開催地	第1回		第2回	
	日時	期日	日時	期日
田野畠村	平成19年2月14日(水)		平成19年3月1日(木)	
洋野町(大野)	平成19年2月7日(水)		平成19年3月2日(金)	
川井村	平成19年2月8日(木)		平成19年3月6日(火)	
二戸市(淨法寺)	平成19年2月15日(木)		平成19年3月7日(水)	
岩泉町	平成19年2月16日(金)		平成19年3月8日(木)	



価格安定事業を通して
畜産経営のお手伝い。

社団法人 岩手県農畜産物価格安定基金協会

〒020-0024 岩手県盛岡市菜園一丁目4番10号 第二産業会館2階
TEL 019-651-9634 FAX 019-624-5727
ホームページ：<http://www.isop.ne.jp/iwnkikin/>

畜産技術情報 (9)

放牧地

スプリングフラッシュを抑え、季節生産性の平準化を図りましょう。

グラステタニーの発生に注意しましょう。

1. 牧草の季節生産性とその調節技術

オーチャードグラスなど寒地型牧草は、春に気温が上昇すると萌芽し、春の長日条件で出穂・開花などの生殖生長を行います。しかもこの時期の気温は牧草の生育適温にあるため、年間で最も旺盛な生育をします。これがスプリングフラッシュです。

放牧草地ではこのスプリングフラッシュを抑え、季節生産性の平準化を図ることが大切です。

このためには、放牧開始の早期化が有効です。

また、スプリングフラッシュで生じる余剰草はロールベールサイレージ調製等により貯蔵しておき、牧草が不足する夏以降に備えておくことも効果的です。

長草利用では家畜の採食量が減少しますし、踏み倒しなどによる草地利用率の低下も招きますので注意しましょう。

2. グラステタニー

グラステタニー（低マグネシウム血症）は、

牛の血中マグネシウム濃度の低下により、歩様異常や筋肉の震え、刺激への過敏症状、強直、痙攣などの症状を現し、重篤な場合は死亡する病気で、主に放牧牛で発生します。

(1) 放牧地・放牧環境の発生条件

- ・土壤中のマグネシウム量の少ない草地
- ・窒素・カリ肥料の過剰施肥などによって牧草中の窒素とカリ含量が高くミネラルバランスが崩れている場合
- ・イネ科牧草の割合が多くマメ科牧草の割合が極端に少ない場合
- ・低温など気象条件のよくない場合
- ・早春晚秋に多発

(2) 発症しやすい放牧牛の特徴

- ・子牛の繁殖牛
- ・高齢牛ほど発症する確立が高い
- ・舍飼期の栄養状態が悪い
- ・放牧馴致がほとんど行われていない

(3) 予防対策

- ・窒素・カリ肥料の抑制と苦土石灰の散布
- ・放牧草のミネラルバランス改善（マメ科牧草の混在、野草地の利用）
- ・牛を気象や生草に慣らすための十分な放牧馴致
- ・放牧牛へのマグネシウム剤投与

（中央農業改良普及センター滝沢駐在 019-688-5525）

家畜の保健衛生 (47)

ウエストナイルウイルス感染症

ウエストナイルウイルス感染症は、ウエストナイルウイルスが主に蚊を介して感染し、ヒトや馬に発熱や脳炎を起こす人獣共通感染症です。本病の治療法はなく、感染馬は、運動失調（つまづき、よろめき、歩様の不調）を主徴とし、他に発熱、旋回、後肢の虚弱、起立不能、肢の麻痺、筋痙攣、口唇の下垂や麻痺または歯ぎしり等の症状をともない、時に急死します。本病は、アフリカ、ヨー

ロッパ、アジア等諸外国に広く分布しており、近年、ロシア、北米で流行するなど、日本国内へ本ウイルスが侵入する危険性が高まっています！

今般、馬用の本病予防用ワクチンが国内で販売されることとなりました。馬飼養者の方で、本ワクチンを使用する場合は、ワクチン接種歴を確実に記録し保管する（本病の診断には本ワクチンの接種歴が問題となります）とともに、本病が疑われる馬を発見した時は直ちに担当獣医師もしくは最寄りの家畜保健衛生所までご連絡ください。

（岩手県中央家畜保健衛生所 小林由樹子）



ご宿泊・ご宴会にご利用下さい。
くづまき交流館 フラワー
TEL. 0195-66-0555 FAX. 0195-66-0511

くづまき高原牧場

社団法人 葛巻町畜産開発公社

乳製品の自宅宅配承っております。
ミルクハウスくづまき
TEL. 0195-66-0030 FAX. 0195-66-0031

風車が回る高原の焼肉レストラン
レストルカス袖山高原
TEL/FAX. 0195-68-2010

〒028-5402 岩手県岩手郡葛巻町葛巻40-57-125
TEL. 0195-66-0211 FAX. 0195-66-0755

地域の話題をお届けします

現地情報

広域

「岩手県フリーストール・フリーバーン酪農研究会」の発足

岩手県内には約1300戸の酪農家がありますが、そのうちフリーストール(FS)、フリーバーン(FB)方式を採用しているのは約50戸です。この飼養方法は、これまでの繋方式と牛舎構造やエサの給与、搾乳方法等が異なり、繋方式から移行した農家では予想外のトラブルに苦慮することが多い一方、これまでその改善策を共有する場がありました。このような同じ悩みをもつ盛岡管内の酪農家が集まって、平成15年に立ち上げたのが「盛岡地域FS・FB酪農研究会」でした。

平成19年2月、この研究会が母体となり県内34戸の酪農家の参加により、新たに「岩手県FS・FB酪農研究会」を設立し、県全域で活動をしていくこととなりました。

この会の第一回目の研修会が4月10日～12日(北海道天塩町方面)に開催され、農家と関係機関20名が参加しました。

今回の研修目的は、自給飼料生産と堆

肥の利用方法をメインとして、FSでパーラー搾乳の農家2戸、平成18年新築のFB農家1戸、(有)CFT(TMRセンター)、民間のFS展示農場(3台の搾乳ロボット)の5カ所を研修してきました。

参加者は、厳しい気候条件で飼料用とうもろこしの作付けに取り組む姿勢に感心したり、搾乳ロボット導入を予定している農家は、最新のロボットを見て自信を深めるなど、有意義な研修となりました。

研究会では、これからもFSやFBを目指す農家の方にも参加を呼びかけ、岩手県の酪農発展のため役立ちたいと考えています。



設立総会



北海道研修

(八幡平農業改良普及センター岩手駐在 渡邊嘉紀)

豚と腹八分目



戦後60年を経て食生活が改善され、豊になったのは良いが、人間さまの世界では近年肥満が増加し、いろいろな病気の原因となっている。

ティータイム 最近はメタボリックシンドローム等とも言われているが、いわゆる生活習慣病が社会問題化しているとか。

ところが人間社会では、われわれ豚族を「ブタ野郎」とか「ブタの大食い」等と、不潔で大食いのお腹もあまり良くない人間さまの代名詞のような言い方がまかりとおっている。われわれ豚族が、そろいもそろって丸々とふとっているところから、「ブタの大食い」などと、トンでもない連想を働かせる御仁が少なくないが、この国のさる食糧研究の大家は、「ブタの胃を解剖

してみると、俗説に反して、彼らはいつも腹八分目でいどの食物しか胃にしていない」と、もう何年も前に証明していらっしゃる。

見境のない“大食い野郎”は、われわれ豚族ではなく、人間さまのほうではないだろうか。われわれ豚族は、つねに“腹八分目”。だから、たとえ太っていても人間さまのような「メタボリックシンドローム」等とは縁の無い健康な人生ならぬ豚生を送っているのである。

ところで——われわれブタ族は、ご存じのように多産系で、一度に10匹程度の兄弟といっしょに生まれてくるのである。

生後、2、3日はいくらか混乱するが、ほどなくわれわれは、母親の乳房の中から、“自分の乳房”を自主的に決め、それから間違っても、けっして他の兄弟姉妹の乳房に口をつけるような、はしたないまねはしないのである。

このことは、この国の代表的なテレビであるNHKが、過日、これを証明する放送を行い、われわれブタ族の知能の高さを見直してくれているのだ。(S)

畜産の研究 (47)

泌乳牛への破碎処理とうもろこしサイレージの多給技術

北海道を中心として、とうもろこしを収穫する際に破碎処理を行う機械の導入が進んでいます。破碎処理により子実のデンブンの消化性が向上することから、収穫適期の延長と多給による配合飼料等の一部代替効果が期待できます。そこで、当所において、黄熟期破碎処理とうもろこしサイレージを多給した場合の産乳性について調査を行いました。TMRの原料として1日・1頭あたり破碎処理とうもろこしサイレージを現物で20kg用いた場合と35kg用いた場合で比較したところ、乾物摂取量と乳量、乳成分は差がなく(表)、35kg用いた方が配合飼料等の穀類が約2割節約できました。今後は、黄熟期以降のとうもろこしサイレージ多給による産乳性、飼料代の節約効果、窒素排泄量の削減効果などについて調査を継続する予定です。

表 乾物摂取量、乳量、乳成分

	TMR原料として 20kg使用	TMR原料として 35kg使用
乾物摂取量 (kg/日)	19.6	20.4
乳量 (kg/日)	30.3 ± 7.0	30.2 ± 9.7
乳脂肪分率 (%)	4.45 ± 0.64	5.00 ± 0.95
乳蛋白質率 (%)	3.31 ± 0.47	3.55 ± 0.45
無脂乳固形分率 (%)	8.85 ± 1.06	8.92 ± 0.41
乳中尿素態窒素 (mg/dl)	15.1 ± 3.3	16.4 ± 2.1

(畜産研究所 茂呂勇悦)

第51回岩手県畜産共進会の開催計画

本会主催の第51回県畜産共進会が下記日程で開催されます。本共進会は農林水産祭参加行事として行われ、成績優秀な家畜は農林水産大臣賞候補として推薦すると共に、黒毛和種については第9回全国和牛能力共進会出品牛の最終選抜を兼ねて実施します。

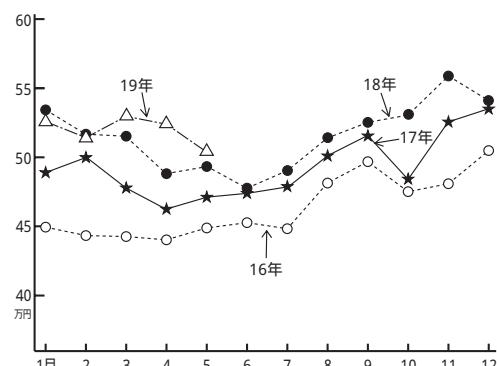
【共進会日程】

出品家畜	日 程	会 場
黒毛和種	7月27日(金)	JA全農いわて中央家畜市場
ホルスタイン種	8月30日(木)	同上
日本短角種	8月31日(金)	同上
馬	8月31日(金)	同上
肉牛	10月20日(土)	岩手畜産流通センター

平成19年5月和牛子牛市場成績〈税込〉
(全農岩手県本部)

市場 (月日)	上 地	場 域	性 別	頭 数	最 高 (円)	最 低 (円)	平 均 (円)	平 均 体 重	kg 当 单 価
県南 5/9 (木)	胆 江 仙		♀	194	851,550	173,250	461,756	276	1,676
			♂	263	705,600	276,150	546,866	312	1,755
			計	457	851,550	173,250	510,737	296	1,723
県南 5/10 (木)	磐 井		♀	198	727,650	211,650	431,545	277	1,557
			♂	1	460,950	460,950	460,950	304	1,516
			♂	246	732,900	225,750	538,484	314	1,716
			計	445	732,900	211,050	490,728	298	1,649
中央 5/16 (木)	新 岩 手		♀	178	658,350	199,500	441,083	275	1,606
			♂	2	504,000	472,500	488,250	321	1,521
			♂	284	698,250	273,000	552,189	306	1,805
			計	464	698,250	199,500	509,291	294	1,733
中央 5/17 (木)	遠 久 野 戸 慈		♀	223	688,800	210,000	451,919	281	1,609
			♂	1	527,100	527,100	527,100	336	1,569
			♂	329	699,300	180,600	543,319	310	1,751
			計	553	699,300	180,600	506,432	298	1,697
中央 5/18 (金)	盛 紫 宮 花 古 卷 北		♀	161	729,750	244,650	445,017	273	1,627
			♂	276	738,150	294,000	534,671	308	1,733
			計	437	738,150	244,650	501,641	296	1,697
			合 計	954	851,550	173,250	446,504	277	1,614
			♂	4	527,100	460,950	491,138	321	1,532
			♂	1,398	738,150	180,600	543,230	310	1,753
			計	2,356	851,550	173,250	503,975	296	1,700

子牛価格の推移(過去3年)



平成19年4月岩手県内指定家畜市場取引成績

(社)岩手県農畜産物価格安定基金協会

区 分	指 定 肉 用 子 牛		
	頭 数	金 額	平 均 価 格
黒 毛 和 種	1,472	734,521,200	498,995
日本短角種	3	855,750	285,250
ホルスタイン種(雌を除く)	4	383,250	91,250
交 雜 種 ・ 乳	9	1,830,150	203,350

(注) : 金額、価格は消費税込み